

仏沼

(ほとけぬま)

位置：北緯40度49分、東経141度22分／標高：0～10m／面積：222ha／湿地のタイプ：低層湿原／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区／所在地：青森県三沢市／登録：2005年11月／国際登録基準：2

湿地のタイプ：低層湿原



東から見た仏沼



仏沼の内部のようす

湿地の概要：

本州の北端、青森県下北半島の付け根、三沢市から六ヶ所村へかけての太平洋岸に面して、大小の湖沼が点在する。むつ小川原湖沼群である。なかでいちばん大きな小川原湖と東側の海岸砂丘にはさまれた干拓地が、仏沼である。

仏沼は、もともとは小川原湖とつながっていたラグーンだった。それが1963年からはじまった干拓事業によって農地になる計画だった。しかし、およそ700ヘクタールの干拓地のうち実際に水田耕作されたのは一部で、大部分は減反政策などの影響もあって農地化が一時中止され、三沢市の市有地としてそのまま放置された。やがて一帯は、ヨシを優占種とする湿原になった。

しかし、計画が白紙撤回されたわけではなく、強制排水と春のヨシ原への火入

れなど、適正な管理は継続された。この一帯は、秋から冬にかけて八甲田おろしの寒風が吹き、夏は冷涼な東風ヤマセが吹く特有の気候条件から、高山性の植物群落が生育し、干拓地には草丈の低い、独特の自然環境が確保されるようになった。やがて、オオヨシゴイ、チュウヒ、コジュリン、シマクイナ、コヨシキリなど草原性の鳥が繁殖をはじめ、オジロワシやオオワシが確認されるようになった。ハッチョウトンボやカラカネイトンボ、ゴマシジミなどのトンボも確認された。

オオセッカの繁殖：

しかし、ここが脚光を浴びるようになったのは、オオセッカゆえである。ウグイス科のオオセッカがここで発見され、繁殖していたのである。1884年に新種として発表されたオオセッカは、その後、どこで繁殖し、どんな生態なのか詳しい



オオセッカ (写真：安藤一次)

ことがわからない「幻の鳥」だった。それが東北の干拓地に突然、姿をあらわしたのである。以来、仏沼はオオセッカの貴重な繁殖地として、地元の人々の手によって大事に守られてきた。

【オオセッカ】全長14cm。全体が褐色で、白い眉斑がある鳥。世界で中国と日本の一部にしか分布しておらず、総数は2500羽程度と推定されている。ヨシ原などの草原性の環境を好み、日本ではごく限られた場所だけでしか確認されていない。仏沼には1000羽あまり繁殖すると考えられている。縄張りの上空を山なりの曲線を描いて飛びながらさえずるのが特徴。

●関係自治体

三沢市役所 Tel: 0176-53-5111

